

平成29年度

事 業 報 告

(平成29年1月1日から12月31日まで)

公益社団法人 競走馬育成協会

# 平成 29 年度 事業報告

公益社団法人競走馬育成協会

## 概況

平成 29 年度の中央競馬はダービーや有馬記念を中心に 1 年を通じて順調に推移し、発売金は対前年比 103.0%、6 年連続で増加という良好な成績であった。

育成業界が注目している 2 歳トレーニングセールは、北海道トレーニングセールが好調でトレーニングセール全体の成績としては平成 28 年をわずかに上回った。JRA ブリーズアップセールを除いた集計で、上場頭数は減少したが売却頭数は前年並みであったため売却率は上昇し、売却総額や平均価格はほぼ前年並みであり、盛況な市場を維持しているといえる。

このような情勢の中、当協会は平成 29 年度も様々な事業を展開してきた。

育成技術講習会については、平成 29 年より JRA が主体となって東西のトレーニングセンターで実馬を使ったデモンストレーション形式の講習に形を変えて、多くの馬関係者に興味深い題材を提供し、幅広く聴衆を惹き付けて大変な盛況ぶりであった。

就業者参入促進事業（BOKUJOB）では、就職協定の動向などを考慮したメインフェアの 6 月開催や乗馬関係者への広報相談コーナーの充実、あるいは SNS の展開といった施策を含めて、関西フェアの開催、牧場見学会や牧場で働こう体験会の実施、ウェブサイトの充実等が 1 年を通じて間断なく運営された。

競走馬育成技術表彰では、近年会員育成馬の優勝する競走の該当率が高い状態を維持しており、会員牧場の育成技術の確かさが示されている。また、開催場表彰の対象となる重賞 2 歳ステークス競走では全 6 競走のうち 5 競走において会員の育成馬が優勝し表彰を受けた。

その他にも、修学奨励金交付、海外派遣研修、競馬関連機材の有効活用、利子補給、リース事業仲介、情報誌発行等の広範囲の事業を展開した。

## 1. 軽種馬の育成調教技術の向上に関する普及、啓発及び指導

### 1) 育成技術講習会の開催（公益事業）

軽種馬の生産、育成、調教に関する知識と技術の向上を目的とした講習会を当協会の全 5 支部で開催した。開催にあたっては広く一般にも参加を呼びかけ、日本中央競馬会（JRA）及び公益財団法人軽種馬育成調教センター（BTC）との連携・共催で実施した。

北海道支部では「アメリカ流ブレーキング初期育成法の特色」についてアメリカでの長期研修から得た生産育成の場に求められる内容について講演を実施し好評を得た。また、関東と関西支部では平成 28 年に講演形式で実施した「乗馬における馬術技能を競走馬における調教技術へ応用して馬術と競馬の融合を図る」という題材について、平成 29 年から JRA が主体となり、実馬を使ったデモンストレーション形式での講習会に形を変え東西のトレーニングセンターで春秋 2 回ずつ実施し、幅広く聴衆を惹き付けて大変な盛況ぶりであった。講習の様子は協会のホームページから動画配信するとともに資料の添付も実

施して、参加できなかった一般の方々に向けても広く普及に努めた。

支部	開催日時／場所	講習内容	講師	参加者
関東	6月1日 美浦トレセン	競馬術－騎座の作り方と 効用	北原広之氏／JRA 馬事公苑	220名
関西	6月8日 栗東トレセン	競馬術－騎座の作り方と 効用	北原広之氏／JRA 馬事公苑	193名
東北	9月14日 八戸家畜市場	米国の生産・育成・セリ の現状	遠藤祥郎氏／JRA 日高育成牧場	39名
九州	9月27日 JBBA九州種馬場	米国の生産・育成・セリ の現状	遠藤祥郎氏／JRA 日高育成牧場	29名
北海道	10月26日 新ひだか町公民館	米国流ブレイキング初期 育成法の特徴	遠藤祥郎氏／JRA 日高育成牧場	216名
関東	11月9日 美浦トレセン	競馬術－馬上で馬と良い 関係を築こう	北原広之氏／JRA 馬事公苑	150名
関西	11月16日 栗東トレセン	競馬術－馬上で馬と良い 関係を築こう	北原広之氏／JRA 馬事公苑	200名

## 2) 競走馬育成調教技術表彰事業（公益事業）

競走馬の育成調教の技術向上を図り、育成調教者の基盤強化及び意欲増進を図るため、優秀な競走成績を収めた競走馬の育成調教者に対する表彰を実施した。

表彰対象 507 競走のうち 284 競走において会員の育成馬が優勝し表彰された。2歳新馬競走で 76.8%、2歳重賞競走で 88.9%という依然として高い表彰該当率を維持しており、全体でも 56.0%という高い水準となった。これは 284 勝という数字とともに平成 18 年に現行の表彰対象競走となって以降、最高の表彰該当率と表彰該当競走数であった。このことは各牧場の努力の成果であり、当協会育成牧場を経由することが新馬や重賞競走の勝利に結びつくことを表しているといえる。

また、競馬施行場で育成協会会長賞表彰を実施する重賞 2歳ステークス競走 6 競走（札幌・函館・新潟・小倉・京王杯・デイリー杯）については、対象の 6 競走中 5 競走で当協会会員の育成馬が優勝しウイナーズサークルにおける表彰を受け、2歳重賞競走における会員の高い表彰該当率を裏付けている。

対象競走	平成29年			平成28年		
	競走数	表彰件数	表彰率	競走数	表彰件数	表彰率
2歳新馬競走	233	179	76.8%	231	164	71.0%
3歳新馬競走	53	37	69.8%	55	41	74.5%
2歳重賞競走 ※1)	18	16	88.9%	18	13	72.2%
障害重賞競走	10	0	0.0%	10	1	10.0%
3歳以上重賞競走	114	32	28.1%	114	40	35.1%
3歳以上平地オープン競走 ※2)	79	20	25.3%	79	16	20.3%
計	507	284	56.0%	507	275	54.2%

※1) 2歳重賞指定交流競走（地方競馬施行）の4競走含む

※2) 3歳限定オープン競走を除く

## 2. 軽種馬の育成調教に関する調査及び研究（公益事業）

軽種馬の育成調教技術の向上と牧場環境の改善を図るため、新入会の牧場について実態、人材、施設等に関する調査を実施しデータを蓄積した。一方、過去に実施した牧場経営等に関する調査報告については、引き続き当協会ホームページに掲載して情報発信している。

## 3. 軽種馬の育成調教に係わる人材の確保・養成に関する支援（公益事業）

### 1) 生産育成調教牧場への就業者参入促進事業（BOKUJOB）

軽種馬の生産育成調教分野で働く人材の確保を目的とし、多くの若者に生産育成調教の現場を紹介することによって就業者の参入を促進するため、当協会を中心に JRA・BTC・公益社団法人日本軽種馬協会（JBBA）・一般社団法人日本競走馬協会の5団体で牧場就業促進事務局（BOKUJOB事務局）を構成して各種事業を展開した。

#### ① 牧場就業促進ウェブサイトの運営

BOKUJOBのウェブサイトは、就職先としての生産育成牧場の認知や牧場での仕事に関する情報の提供を目的に平成22年に開局された。近年は実利用者数に比べて延べ利用者数に減少傾向がみられている。

仕様変更後の検索ソフトを利用して平成25年以降の利用状況を解析すると、実利用者数は平成28年に約9万人に迫るまで増加してきたが、延べ利用者数については平成27年に16万人に達したものの平成29年にかけて徐々に減少してきた。このことは実利用者数が安定しているのに、再び訪問する者やサイト内の他のページを閲覧して滞在する者が減少していることを表している。また、平成27年からスマートフォン用サイトを開設したこともあり、利用者数のうち半数以上がスマートフォン利用者となっており、その利用者数は減少していなかった。

年度	延べ利用者数	実利用者数	スマホ利用者数 (内数)	スマホ利用率
平成 29 年	133,912	81,357	54,151	66.6%
平成 28 年	148,923	88,473	54,641	61.8%
平成 27 年	160,488	87,994	51,302	58.3%
平成 26 年	157,194	54,585	28,722	52.6%
平成 25 年	107,935	28,345	11,494	40.6%

## ② BOKUJOB メインフェア 2017 (東京競馬場)

就職協定の変更や高校生の就職活動の動向を考慮して、平成 28 年からイベントを 6 月に集中開催することとした。したがってメインフェアは、G I 安田記念施行週に同時期同場所で開催した。

少子高齢化による若年層人口の減少、有効求人倍率の上昇といった昨今の日本においては、どの業界においても労働力確保が深刻である。そのような逆風の中、対象参加者数は前年より若干減少したものの、SNS 等で若年層に向けての広報展開したことや大学生の就職活動解禁直後ということもあり、滞在時間が長く目的に真摯な参加者の本気度が垣間見えるイベントとなった。

- ・ 6 月 3~4 日 (土・日) 東京競馬場 フジビュースタンド 1 階イーストホール  
出展 27 牧場・JBBA・BTC・装削蹄協会・日本軽種馬青年部連絡協議会  
静内農業高校教諭の進路指導・競走馬のふるさと案内所

年度	対象者 (高校・大学他)	保護者 学校関係者	見学者	受付来場者 合計
平成 29 年	103	44	48	195
平成 28 年	123	61	70	254
平成 27 年秋	86	34	200	320

## ③ BOKUJOB 関西フェア 2017 (阪神競馬場)

G I 宝塚記念施行週に開催日開催競馬場で実施される BOKUJOB 関西フェアは、関西地区での BOKUJOB 活動として定着しつつある。このことから平成 29 年の関西フェアも、牧場との直接対話の場としてさらなる認知度の向上を見据え、同時期同場所で開催した。

若年層向けの広報展開に加えて JRA ホームページのトップページから告知を実施したことによる効果は絶大で、対象となる世代の参加者数も増加し、滞留時間が長く熱心な参加者が多い中身の濃いイベントとなっていた。

- ・ 6 月 24~25 日 (土・日) 阪神競馬場 アメニティホール  
出展 9 牧場・JBBA・BTC・日本軽種馬青年部連絡協議会

年度	対象者 (高校・大学他)	保護者 学校関係者	見学者	受付来場者 合計
平成 29 年	78	45	71	194
平成 28 年	69	48	57	174
平成 27 年	69	45	118	232

#### ④ 広報&相談コーナーと PR ブース

広報&相談コーナーとしては、平成 28 年から乗馬に携わる関係者へ BOKUJOB 活動を拡大展開し、より馬に係わる人々に牧場での仕事内容や生活等への理解を浸透させるため、平成 29 年は栗東トレーニングセンターでの開催を新たに加え、以下の各会場にブースを設置し BOKUJOB 活動の広報や牧場業務に関する相談等を実施した。

- ・栗東トレーニングセンター 馬に親しむ日 5月3日 来場者 30名
- ・御殿場インターハイ馬術会場 7月24~26日 来場者 20名
- ・宮崎育成牧場 馬に親しむ日 8月27日 来場者 12名

さらに、ジョッキーベイビーズには多くの馬関係者が関与していることから、平成 28 年よりジョッキーベイビーズに協賛することにより関係者に BOKUJOB 活動を拡散するとともに、その当該節開催日には一般来場者向けにも広報&相談コーナーを開設した。

- ・東京競馬場 10月7~8日 来場者 43名 (ジョッキーベイビーズ協賛)

また、フェアを開催する地域から離れた場所の潜在的ニーズの掘り起こしのために、各競馬場にブースを設置して BOKUJOB 活動の広報や牧場業務に関する相談等を行なう活動を、平成 29 年も継続して実施した。

- ・中京競馬場 7月16~17日 来場者 45名
- ・札幌競馬場 8月13~14日 来場者 36名 (JBBA・BTC 研修案内)
- ・小倉競馬場 9月3~4日 来場者 43名

一方、中山競馬場 JRA ブリーズアップセール・札幌競馬場北海道トレーニングセール・ノーザンホースパークセレクトセールといったセリ市場の際に PR ブースを設置し、BOKUJOB 活動の広報や PR を実施した。

#### ⑤ 牧場見学会

関東関西それぞれの地区ごとに一般公募で参加者を募り、若手従業員との質疑応答等を交えた牧場見学会を土曜日に日帰りを実施した。

例年各地区 25 名程度であった参加者数を、平成 29 年は可能な限り増大させた。

- ・関東地区 3月4日 参加者 28名  
協力：ビッグレッドファーム銚田、KS トレーニングセンター、松風馬事センター
- ・関西地区 3月11日 参加者 30名  
協力：グリーンウッド・トレーニング、信楽牧場、ノーザンファームしがらき

## ⑥ 夏休み牧場で働こう体験会

全国公募で参加者を募り夏休み期間を利用して、牧場での就業体験・体験乗馬・BTC 研修体験学習・JBBA 研修見学・スタリオン見学等のカリキュラムを5泊6日で実施した。なお、平成28年から牧場体験滞在を2泊とし、体験受入牧場を静内地区にも広げており、平成29年も同様に実施した。

・7月30日～8月4日 参加者17名

体験受入牧場：杵臼牧場、宮内牧場、谷口牧場浦河育成センター、様似町軽種馬共同育成センター、グランド牧場、岡田牧場目名共同トレーニングセンター

## 2) 担い手育成事業

生産育成調教の牧場で働く意欲ある人々に必要な馬に関する知識と技術を習得させ、牧場就労担い手としての能力を開発し向上させるため、研修機関への修学や海外研修への派遣を援助した。

### ① 修学奨励金交付事業

BTC が実施する育成調教技術者養成研修の平成29年度入講生3名とJBBA が実施する軽種馬生産育成技術者研修の平成29年度入講生1名に対して、修学奨励金を交付した。

### ② 生産育成技術者海外派遣研修事業

生産育成技術者養成機関の卒業生を対象とした研修は、BTC からの推薦者5名をアイルランド競馬学校（RACE）に約3か月間（5月11日～8月7日）派遣した。

長期研修としては、会員牧場の従業員1名について、フランスに約1か月間（7月15日～8月16日）派遣した。

短期研修としては、会員及び会員牧場の従業員等6名をイギリス・アイルランドに8日間（11月5日～11月12日）派遣して、生産育成牧場、種馬所、厩舎、競馬場、競馬学校等で研修を実施した。

## 4. 軽種馬の育成調教に係わる競争力の向上に対する支援（共益事業）

### 1) セリ市場の振興

若馬育成調教の成果がセリ市場取引に反映されるように、2歳トレーニングセールへの支部による後援等を実施した。

### 2) 育成調教施設等の整備に対する助成事業

#### ① 軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設等の整備のために会員が借り受けた資金の利子負担軽減を図るため、公益財団法人全国競馬・畜産振興会から軽種馬生産育成強化資金を受け、平成29年は新規案件6件について銀行申請手続から融資協議会を経て利子補給を開始するとともに、継続案件

2件についても利子補給を実施した。

#### ② 畜産環境整備リース事業

家畜排泄物適正管理のための施設や機材の貸与によって畜産環境問題に対応するために、一般財団法人畜産環境整備機構の行う畜産環境整備リース事業について、平成29年は会員への継続貸付1件に関する委託業務を実施した。なお、この継続貸付案件は平成29年10月までにリース期間を終了し譲渡が行われたため、本事業は終了した。

#### ③ 競馬関連機材等有効活用事業

JRAの施設等で使用を取りやめた競馬関連の機器・資材などを有効に活用するため、平成29年は3回の抽選会を実施し、ハロー類6台、ローラー類2台、芝管理機器類9台、馬場柵4セット、散水車1台、トラック2台、フォークリフト1台、ユニモグ3台、トラクター3台、ホイールローダー1台、モーターグレーダー1台の合計33件について斡旋を実施した。

#### ④ 畜産近代化リース事業

公益財団法人畜産近代化リース協会の行う畜産リース事業について、平成29年は会員から新規案件の申請は無かった。

### 5. 軽種馬の育成調教に係わる国際交流（公益事業）

競馬先進国との情報交換を進めるとともに、国内や近隣諸国に対して軽種馬の育成調教技術の指導、普及等を通じて国際交流を推進するため、海外派遣研修報告書を発行した。また、情報交換のため関係団体で構成される海外流通促進連絡協議会に参加した。

### 6. 軽種馬の育成調教に関する情報発信（公益事業）

軽種馬の飼養管理及び育成調教技術の普及並びに改善向上に役立つ情報を提供するため、平成29年も機関誌「いくせい」の55号（9月30日付）を発刊した。

また、協会ホームページ等を利用して、育成技術講習会の内容等の育成調教に係わる情報を広く一般市民にも閲覧可能な形で発信した。

### 7. 協会の運営、組織、その他必要な監査等

#### 1) 総会の開催（定時総会）

2月24日15:00～ JRA本部9階 第1会議室

議案：平成28年度事業報告及び財務諸表について



平成 29 年度会費等の額及び徴収の方法について  
理事及び監事の選任について

## 2) 理事会の開催

### ① 第 1 回理事会（定例）

2 月 3 日 14 : 00 ~ 新橋分館 4 階会議室

議案：平成 28 年度事業報告及び財務諸表について

平成 29 年度定時総会の開催について（日程、場所、提出議案）

総会における議決権行使書及び委任状について

業務委託費の配分方法について

公益社団法人競走馬育成協会職員就業規則の改正について

### ② 第 2 回理事会（臨時）

2 月 24 日 14 : 00 ~ JRA 本部 9 階 第 2 会議室

議案：平成 29 年度定時総会の委任状の取り扱いについて

### ③ 第 3 回理事会（臨時）

2 月 24 日 15 : 50 ~ JRA 本部 9 階 第 2 会議室

議案：会長理事、副会長理事及び常務理事の選定について

役員の報酬額等について

### ④ 第 4 回理事会（定例）

12 月 8 日 14 : 00 ~ 新橋分館 4 階会議室

議案：平成 30 年度事業計画及び収支予算等について

### ⑤ 書面理事会（定款第 41 条）

3 月 9 日 入会の承認 2 件

9 月 11 日 入会の承認 2 件

## 3) JRA との育成等に関する懇談会

9 月 29 日 10 : 00 ~ JRA 本部 9 階 第 3 会議室

懇談内容：セリ市場の動向について

育成牧場における人材確保（BOKUJOB）・養成について

育成技術表彰事業について

育成牧場の基盤強化対策について

その他

#### 4) 協会の組織

##### ① 会員数の動向

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
平成 28 年 12 月 31 日	85	9	42	28	15	179	8
増加	1	1	1	1		4	0
減少	3	1	2	1	1	8	0
平成 29 年 12 月 31 日	83	9	41	28	14	175	8

##### ② 役員の変向

平成 29 年 2 月 24 日の定時総会において役員の変向が行われ、全員が留任した。

平成 29 年 2 月 24 日以降の役員

会長理事	栗田晴夫	非常勤	
副会長理事	佐藤光信	常勤	常務理事兼務
副会長理事	飯田正剛	非常勤	
理事	高橋司	非常勤	
理事	荻野豊	非常勤	
理事	諏訪豊蔵	非常勤	
理事	沖崎誠一郎	非常勤	
理事	中内田克二	非常勤	
理事	柏木務	非常勤	
理事	宮島成郎	非常勤	
理事	織田信美	非常勤	
監事	安達正奉	非常勤	
監事	杉野繁治	非常勤	

##### ③ 職員等の動向

平成 28 年 12 月 31 日	就任・転入	退任・転出	平成 29 年 12 月 31 日
3 名	1 名	1 名	3 名

#### 5) その他監査・検査等

##### ○ 地方競馬全国協会 (NAR) による監査

7 月 15 日 新橋分館 4 階 会議室

内容：競走馬生産振興事業・軽種馬経営指導研修 (人材養成支援) について

##### ○ 日本中央競馬会 (JRA) による監査

9 月 7 日 新橋分館 4 階 会議室

内容：コンプライアンスについて